PR

子育てしやすい未来ってどんな未来？

～子供を持つ・持たない選択について考える～

第2回車座会議
7月4日(木)
ひろしまCampsにて

全国的に少子化が進む中、広島県においても少子化の進展に歯止めがかけられていません。結婚、出産、子育ては一人一人の自由な意思に基づくものである一方、県では「子供を持ちたい」と願う方の希望の実現を後押しできるよう取り組んでいます。県として今後注力すべき施策の方向性について、子育て当事者や県民からの幅広い意見を聞く「車座会議」を全5回開催。今回は、そのうち第2回の様子をお届けします。

車座会議参加者

広島工業大学3年
旦 千之進さん

叡啓大学1年
森 佑太さん

広島工業大学4年
園部花奈さん

叡啓大学3年
濵岡千咲さん

湯崎英彦
広島県知事
3児の父

フリーアナウンサー
枡田絵理奈さん
3児の母

広島大学 総合科学部
白川俊之先生
1児の父

RCCアナウンサー
田口麻衣さん(進行)
3児の母

RCCアナウンサー
唐澤恋花さん

若い世代が考える子育てへの期待や不安…3つの論点について、率直な意見を聞いてみた。

memo

〈広島県の少子化の現状等〉（広島県資料より）

- 県内人口は、2050年にはピーク時から**約2割（約65万人）減少**し、特に若年人口の減少により**1.2人で1人の高齢者を支える**ことになる見込み。
- 人口減少により、**地域・社会・経済の担い手の不足、社会保障制度の破綻等**が懸念される。

〈結婚・出産等の現状〉

- **有配偶者率は減少傾向。**結婚年齢は26～27歳頃が最も多い。
- 平均出産年齢は31.6歳。

〈既婚者へのアンケート〉

- 希望の数の子供を持てていない人は**31.1%。**
- 希望の子供数を持たない理由は**経済的負担**が多く、持てた理由は負担感より喜びが大きい等の**心情的理由**が多い。
- 出産・子育てをしようという意思決定につながる支援は、**経済的負担の更なる軽減を望む人**が多い。

広島県では現在特設サイトで、県民から広く意見を募集中です。

1.子供を持つ・持たないの選択について

田口アナ　まずは独身の皆さんにお聞きします。将来、子供を持ちたい人？(全員挙手)…あら、全員ですか！

園部さん　子供は2人はほしいかな。その子の将来を考えると、きょうだいで支え合えるようにしたいです。

湯崎知事　園部さんは何人きょうだいなんですか？

園部さん　3人で、私は末っ子です。

田口アナ　3人じゃなくて、2人ほしいというのはなぜ？

園部さん　やっぱり金銭的に3人は厳しいかなって。

田口アナ　なるほど。唐澤さんは、社会に出ていろいろ考えてきたと思うけど…何人ほしい？

唐澤アナ　お金のことを考えると2人ですね…。子供1人にかかる金額は相当だと、大学で教わりました。

田口アナ　では、皆さんの周りに「子供はいらない」という人はいますか？

濵岡さん　もちろんいます。自分の生活を優先したいとか、金銭面、時間的余裕から子供は考えられないとか。

枡田アナ　うちは子供が3人いますが、たしかにすっごくお金がかかります(笑)。たくさんの経験をさせてあげたいけど、何をするにも財布と相談。でも、子育てを通して自分も成長するし、出会いもあるし、自分がどのくらい愛をもって育てられたか知れました。大変だけど、幸せです。

白川さん　僕は1歳の子供がいますが、生活がガラッと変わりましたね。でも生活が変わるっていうのは決して悪い意味ではなくて。新鮮な経験が多くて楽しいですよね。

湯崎知事　情報がたくさんあって、「子育て＝お金がかかって大変」というイメージが先行しているのかな。僕はもともと子供は別に…と思っていたけど、長男が生まれたら、かわいくってしょうがない(笑)。大変だけど、なんとかなっている。そういう体験をもっと広めたいです。

枡田アナ　助けてくださる地域の方、施設、周りの協力があって子育てが成り立っています。そのおかげで意外となんとかなる！っていうのは、伝えたいですね。

2.結婚・子育てをしたいと思える未来とは？

田口アナ　将来結婚・子育てをしたいと思える人が増えるには、どのような社会になると良いですか？

園部さん　一定の年齢までに結婚したら金銭的支援が受けられるとか、若年層の結婚・出産にメリットが感じられる施策があると良いと思います。

旦さん　男性が育休をとりやすい社会になってほしいです。大人が積極的に育休を取る姿を見せてもらえたら、それが将来、僕らの当たり前になるかなって。

田口アナ　知事も育休を取られましたよね。

湯崎知事　ええ。今の男性の育休取得率は20～30%くらいで、意識は確実に変わってきているんですが…。

田口アナ　「誰かが育休を取ると、他の人に皺寄せがいく」という声もありますよね。

湯崎知事　(子供を持つ、持たないの選択の自由が)進んできただけにね。

枡田アナ　子育てで誰かに助けてもらっても、常に申し訳なさを感じます。「ありがとう」より「すみません」が先に出てしまう。サポートする人、育休を取るときに残る人の負担も軽減される仕組みがあると良いですね。

森さん　僕たちは、子育て現役世代との接点がほとんどありません。子育てへの不安は、知らないことから生まれている気がして…。その世代と話す機会があれば、「なんとかなる」という面も見えてくるのかな。

枡田アナ　たしかに、若い世代と子育て世代が触れ合えるイベントがあったらいいですね。体力がある学生さんが子供と遊んでくれたらうれしいし(笑)。

湯崎知事　アメリカだと高校生がベビーシッターをする制度もあるし、良いアイデアかもしれないね。

唐澤アナ　私は、学生の頃は20代で子供を…と思っていましたが、キャリアを考えると今は無理だと感じます。実家は遠いし、仕事に穴を開けたくないし、復帰してもレベルアップできるか…。

田口アナ　私が育休から復帰するときも不安でした。でも実際に戻ってみると、自分の新しい考え方や役割が仕事にプラスされるという考え方もできますよ。

白川さん　男性ももっと育休を取って、夫婦で負担を分かち合っていくことが大事だと思うんです。しかし、例えば子供が体調を崩したとき、早退や時短で対応するのは女性が多いのが実情です。

田口アナ　昔よりは(男性の育児参加も)すごく増えているとは思うんですが、まだ男女半々ではない？

白川さん　女性のように育休を長期間取るのは、まだ難しいですね。家事時間も男性が圧倒的に少ないです。

田口アナ　家事代行サービスが充実すると変わりますか？

白川さん　経済的余裕があれば良いですが、若者の不安は経済面です。長時間労働を前提とした仕事の回し方を改めて、男性も女性も、仕事と家庭生活の両立ができる環境が必要ではないでしょうか。

3.子供を持つための行政支援は妥当？

田口アナ　授業料無償などの子育て支援は、税金から賄われます。その税金を払う人には、子供がいない人も含まれる。それでも、子育て支援は必要だと思う人？(全員挙手)

森さん　子供がいる人・いない人を並べるから不平等と言われるんだと思います。子育て支援は「子供がいる人への支援」ではなく「子供への支援」。育休も「子供のための制度」。子供の成長を後押しするものと考えるべきですよね。

枡田アナ　仰るとおり、行政支援は子供に与えられるもの。その子供たちが育って、豊かなアイデアで未来を変えたり、私たちを支えてくれたりするようになるんですよね。長男の幼稚園が無償化になったとき、園長先生に「このお金は、親のためのお金ではありません。必ず子供のために使ってください」と言われたのを思い出しました。

白川さん　人口ピラミッドからもわかりますが、かつてないくらい少ない若年層が、将来多くの高齢者を支えていかないといけません。社会全体で長期的にみると少子化対策は必要です。そういう社会に育てられた子たちが、将来、自分が受けた子育て支援を次の世代に継いでいこうとしてくれるのではないでしょうか。

湯崎知事　最近、子育て支援金が議論になっていて、反対意見には2つの面があります。負担額をなんとなくごまかしているのではないかという面と、負担が増えるのはちょっと厳しいという面。皆さんに置き換えると、例えば消費税が上がると、どう思いますか？

旦さん　上がったものが何に使われるのか、明確にわかっていれば賛成です。学生としては辛いですけど(笑)。

濵岡さん　将来の自分の子供もその税金に支えられるのであれば、払う価値のある税金だと感じます。

田口アナ　我慢しないといけなくても、大丈夫？(笑)

旦さん　自分以外のことを考えると、税金が上がっても施策が充実する方が良いですね。

湯崎知事　皆さんがそろって「具体的に何に使っているかわかれば良い」と言ってくださったのは、行政としてはすごく心強いです。ありがとう。これからの車座会議でも、引き続きいろいろな立場の方の声を聞いていきたいです。

©The Chugoku Shimbun